

1. 活動実績 (シーズ/ニーズ調査・新技術説明会・育成試験)

調査実績 (R S P 事業によるもの)			
No.1	11年度	第1回研究情報協議会	予算額 15万円
	目的	学官から成る委員から研究情報収集	
	調査対象	学官の研究所長	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	各研究所の代表的な研究内容の情報入手	
No.2	11年度	名古屋大学研究情報協議会	予算額 10万円
	目的	名古屋大学の研究情報収集	
	調査対象	各学部の教授等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	名古屋大学の各学部の研究内容の情報入手	
No.3	11年度	名城大学研究情報協議会	予算額 10万円
	目的	名城大学の研究情報収集	
	調査対象	各学部の教授等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	名城大学の各学部の研究内容の情報入手	
No.4	11年度	豊橋技術科学大学研究情報協議会	予算額 10万円
	目的	豊橋技術科学大学の研究情報収集	
	調査対象	各学部の教授等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	豊橋技術科学大学の各学部の研究内容の情報入手	
No.5	11年度	名古屋工業大学研究情報協議会	予算額 10万円
	目的	名古屋工業大学の研究情報収集	
	調査対象	各学部の教授等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	名古屋工業大学の各学部の研究内容の情報入手	
No.6	11年度	第2回研究情報協議会	予算額 15万円
	目的	学官から成る委員から研究情報収集	
	調査対象	学官の研究所長	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	各研究所の代表的な研究内容の情報入手	
No.7	11年度	豊田工業大学研究情報協議会	予算額 10万円
	目的	豊田工業大学の研究情報収集	
	調査対象	各学部の教授等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	豊田工業大学の各学部の研究内容の情報入手	

No. 8	11年度	中部大学研究情報協議会	予算額	10万円
	目的	中部大学の研究情報収集		
	調査対象	各学部の教授等		
	調査方法	ヒアリング形式		
	調査の成果	中部大学の各学部の研究内容の情報入手		
No. 9	12年度	豊橋技術科学大学研究情報協議会	予算額	10万円
	目的	豊橋技術科学大学の研究情報収集		
	調査対象	各学部の教授等		
	調査方法	ヒアリング形式		
	調査の成果	豊橋技術科学大学の各学部の研究内容の情報入手		
No. 10	12年度	第1回コティネータ・サークル・ワーキング・グループ	予算額	10万円
	目的	産学官から成る委員から研究情報収集		
	調査対象	学官の研究所長及び企業		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	各研究所の代表的な研究内容の情報入手及び企業ニーズ		
No. 11	12年度	愛知工業大学研究情報協議会	予算額	10万円
	目的	愛知工業大学の研究情報収集		
	調査対象	各学部の教授等		
	調査方法	ヒアリング形式		
	調査の成果	愛知工業大学の各学部の研究内容の情報入手		
No. 12	12年度	第2回コティネータ・サークル・ワーキング・グループ	予算額	10万円
	目的	産学官から成る委員から研究情報収集		
	調査対象	学官の研究所長及び企業		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	各研究所の代表的な研究内容の情報入手及び企業ニーズ		
No. 13	12年度	大同工業大学研究情報協議会	予算額	10万円
	目的	大同工業大学の研究情報収集		
	調査対象	各学部の教授等		
	調査方法	ヒアリング形式		
	調査の成果	大同工業大学の各学部の研究内容の情報入手		
No. 14	12年度	第3回コティネータ・サークル・ワーキング・グループ	予算額	10万円
	目的	産学官から成る委員から研究情報収集		
	調査対象	学官の研究所長及び企業		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	各研究所の代表的な研究内容の情報入手及び企業ニーズ		
No. 15	12年度	名古屋工業技術研究所研究情報協議会	予算額	10万円
	目的	名古屋工業技術研究所の研究情報収集		
	調査対象	各研究室長等		
	調査方法	ヒアリング形式		
	調査の成果	名古屋工業技術研究所の各研究室の研究内容の情報入手		

No.16	12年度	中京大学研究情報協議会	予算額	10万円
	目的	中京大学の研究情報収集		
	調査対象	各学部の教授等		
	調査方法	ヒアリング形式		
	調査の成果	中京大学の各学部の研究内容の情報入手		
No.17	13年度	愛知県立大学研究情報協議会WG	予算額	10万円
	目的	愛知県立大学の研究情報収集		
	調査対象	各学部の教授等		
	調査方法	ヒアリング形式		
	調査の成果	愛知県立大学各学部の研究内容の情報入手		
No.18	13年度	名古屋工業大学研究情報協議会WG	予算額	10万円
	目的	名古屋工業大学の研究情報収集		
	調査対象	教授2名		
	調査方法	ヒアリング形式・実験室での説明		
	調査の成果	名古屋工業大学各学部の研究内容の情報入手		
No.19	13年度	第1回コーディネータサークルワーキング・グループ	予算額	10万円
	目的	各機関の産学官コーディネータから研究情報等収集		
	調査対象	県内大学及び企業		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	各機関の代表的な研究情報及び企業ニーズの入手		
No.20	13年度	愛知県がんセンター研究情報協議会WG	予算額	10万円
	目的	愛知県がんセンターの研究情報収集		
	調査対象	研究所所長等		
	調査方法	ヒアリング形式		
	調査の成果	愛知県がんセンターの研究内容の情報入手		
No.21	13年度	国立岡崎共同研究機構研究情報協議会WG	予算額	10万円
	目的	国立岡崎共同研究機構の研究情報収集・施設見学		
	調査対象	機構内の教授等		
	調査方法	ヒアリング形式・施設見学		
	調査の成果	国立岡崎共同研究機構の研究内容の情報入手		
No.22	13年度	日本福祉大学研究情報協議会WG	予算額	10万円
	目的	日本福祉大学の研究情報収集		
	調査対象	各学部の教授等		
	調査方法	ヒアリング形式		
	調査の成果	日本福祉大学共同研究センターの情報入手		
No.23	13年度	中京大学研究情報協議会WG	予算額	10万円
	目的	中京大学の研究情報収集及び協力方策検討		
	調査対象	各学部の教授等		
	調査方法	ヒアリング形式		
	調査の成果	中京大学の各学部の研究内容の情報入手		

No.24	14年度	名古屋工業大学研究情報協議会WG	予算額 10万円
	目的	名古屋工業大学の研究情報及び共同研究センター情報の収集	
	調査対象	共同研究センター長等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	共同研究センター情報入手及び連携協力体制の強化	
No.25	14年度	愛知県農業総合試験場研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	愛知県農業総合試験場の研究情報収集	
	調査対象	共同研究推進室長等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	試験場の研究内容の情報入手及び連携協力体制の強化	
No.26	14年度	愛知県産業技術研究所研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	愛知県産業技術研究所の研究情報収集	
	調査対象	研究所副所長等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	産業技術研究所の研究内容の情報入手及び連携協力体制の強化	
No.27	14年度	名古屋大学研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	名古屋大学の研究情報収集	
	調査対象	各学部の教授等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	名古屋大学各学部の研究内容の情報入手	
No.28	14年度	名城大学研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	名城大学の研究情報収集	
	調査対象	各学部の教授等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	名城大学各学部の研究内容の情報入手及び連携協力体制の強化	
No.29	14年度	名古屋工業大学研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	名古屋工業大学との連携強化及び情報収集	
	調査対象	共同研究センターの教授等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	名古屋工業大学との連携協力体制の強化	
No.30	14年度	名古屋工業大学研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	名古屋工業大学の研究情報収集	
	調査対象	教授3名	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	名古屋工業大学各学部の研究内容の情報入手	
No.31	15年度	愛知県心身障害者コロニー研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	愛知県心身障害者コロニーの研究情報及び産学官連携状況聴取	
	調査対象	所長及び研究者	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	心身障害者コロニーの研究内容の情報入手	

No.32	15年度	国立豊田工業高等専門学校研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	国立豊田工業高等専門学校の研究情報収集	
	調査対象	各学部の教授等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	国立豊田工業高等専門学校の各学部の研究内容の情報入手	
No.33	15年度	オリザ油化(株)研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業代表者・研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	オリザ油化のニーズ及び育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.34	15年度	長大(株)研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	長大のニーズ及び育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.35	15年度	東海ゴム(株)研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	東海ゴムのニーズ及び育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.36	15年度	(株)光触媒研究所研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業代表者・研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	光触媒研究所のニーズ、育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.37	15年度	アイセロ化学(株)研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	アイセロ化学のニーズ及び育成試験の事後情報入手	
No.38	15年度	豊橋技術科学大学研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	シーズ・ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	育成試験担当教授等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	豊橋技術科学大学の育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.39	15年度	瀬戸製土(株)研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業代表者・研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	瀬戸製土のニーズ及び育成試験の事後情報入手	

No.40	15年度	新栄機工(株)研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	新栄機工の育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.41	15年度	スギムラ化学工業(株)研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	スギムラ化学工業の育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.42	15年度	(株)光洋研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業代表者・研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	光洋のニーズ及び育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.43	15年度	いその(株)研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	いその育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.44	15年度	福花園種苗(株)研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	福花園種苗ニーズ及び育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.45	15年度	I N A Xエンジニアリング(株)研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	I N A Xエンジニアリングのニーズ及び育成試験の事後情報入手	
No.46	15年度	(株)I N A X研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	I N A Xの育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.47	15年度	サンエイ糖化(株)研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	サンエイ糖化の育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	

No.49	15年度	アラコ(株)研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	アラコの育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.50	15年度	A・Cエンジニアリング(株)研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	A・Cエンジニアリングの育成試験の事後情報入手	
No.51	15年度	(株)ティムス研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	ティムスの育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.52	15年度	(有)竹内可鍛工業所研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	竹内可鍛工業所の育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.53	15年度	(株)J・T・E・C研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業代表者・研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	ジャパンティッシュエンジニアリングの育成試験の事後情報入手	
No.54	15年度	(株)ニデック研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	ニデックの育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.55	15年度	(株)ニデック人工視覚研究所研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業代表者・研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	研究所のニーズ及び育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	
No.56	15年度	(株)三進製作所研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業代表研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	三進製作所の育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	

No.57	15年度	(株)名古屋モールド研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	企業研究者等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	名古屋モールドの育成試験の事後情報入手	
No.58	15年度	名城大学研究情報協議会WG	予算額 1万円
	目的	シーズ・ニーズ収集及び育成試験の事後情報収集	
	調査対象	理学部教授等	
	調査方法	ヒアリング形式	
	調査の成果	シーズ及び育成試験の事後情報、産学官連携情報入手	

調査実績（それ以外のもの）

No.1	11～12年度	半導体超拡散による非平衡固体プロセス研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.2	11～12年度	水素応用物性研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.3	11～12年度	カーボンナノチューブの電気的特性研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.4	11～12年度	新世代モータのコンピュータ援用設計 と評価に関する研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	

No.5	11～12年度	高齢者用知的健康・福祉機器システム研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.6	11～12年度	有機ELデバイス研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.7	11～12年度	自動車の情報処理システムの高度化研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.8	11～12年度	環境低負荷型地域電力・熱供給システムと水資源の保全に関する調査研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.9	11～12年度	再生コンクリート技術開発研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.10	11～12年度	視環境適応評価の国際比較研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		

No.11	11～12年度	難分解性化学物質の分析評価と処理対策研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.12	11～12年度	構造脂質のバイオサイエンスと バイオテクノロジー研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.13	11～12年度	生物環境工学研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.14	11～12年度	光エネルギー変換系にかかわる タンパク質超分子複合体研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.15	11～12年度	生命観育成支援のための基礎的検討研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.14	11～12年度	ファインセラミックス楽器体研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		

No.15	12～13年度	新コンセプト熱電材料開発研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.16	12～13年度	フォトコンジュゲートマテリアル研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.17	12～13年度	エネルギー・ビーム工学研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.18	12～13年度	オプトウェア研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.19	12～13年度	三次元地形景観データベース作成 及び利用とGIS応用研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.20	12～13年度	河川生態系の工学的評価の開発と その普及に関する研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		

No.21	12～13年度	ソーラー飛行船開発研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.22	12～13年度	建築・都市空間の わかり易さの評価手法構築研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.23	12～13年度	健康長寿に寄与する 新油脂産業育成のための研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.24	12～13年度	バイオデザインの研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.25	12～13年度	植物バイオテクノロジー戦略研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.26	12～13年度	超小型放射光源とその産業応用に関する研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		

No.27	13～14年度	ナノ領域分子集合体研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.28	13～14年度	新規高剛性・高ダンピングセラミックス研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.29	13～14年度	メカトロニクス制御系の 次世代設計法に関する研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.30	13～14年度	有機エレクトロニクス研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.31	13～14年度	PKI（公開鍵基盤）利用推進研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.32	13～14年度	廃塩ビ再資源化技術研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		

No.33	13～14年度	難処理大量人工物研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.34	13～14年度	情報通信が支える 保険・医療・福祉のまちづくり研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.35	13～14年度	自然災害に対する防災意識形成・教育研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.36	13～14年度	医療・生体工学応用 スマートマイクロチップ研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.37	13～14年度	ナノ反応場と バイオエレクトロニクスインターフェイス制御研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.38	13～14年度	エレクトロソニックスによる生体修飾研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		

No.39	13～14年度	バイオ・ベンチャー創業における ビジネス・モデルの財務的評価に関する研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.40	14～15年度	プラズマナノテクノロジー研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.41	14～15年度	マイクロ波によるケミカルプロセス研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.42	14～15年度	産学官連携による カーボンマイクロコイル(CMC)の用途開発に関する研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.43	14～15年度	内視鏡手術支援ロボットアーム開発研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.44	14～15年度	次世代太陽電池及び 太陽光発電システム技術研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	

No.45	14～15年度	バーチャルリアリティのバリアフリー化研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.46	14～15年度	未来情報記録ストラテジー研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.47	14～15年度	超臨界流体応用技術研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.48	14～15年度	ナノ粒子懸濁系高度処理研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.49	14～15年度	モバイル機器による 「ひとナビゲーション」研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
No.50	14～15年度	バイオデザインの活用による 新機能物質の開発研究会	予算額	20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		
	調査対象	大学、企業等		
	調査方法	会議形式		
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築		

No.51	14～15年度	バイオベンチャー設立ネットワーク研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.52	15年度	糖鎖科学名古屋拠点研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.53	15年度	ジェノテクノロジー（加齢工学）からの新しい「もの」づくり研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.54	15年度	ナノ複合セラミックスの実用材料への展開研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.55	15年度	身体運動の機能評価に基づく運動支援ロボティクス研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.56	15年度	水熱プロセスによる炭素・水素循環型エネルギー生成研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	

No.57	15年度	医・工連携バイオニクス機器開発研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.58	15年度	ブロードバンド活用による 先進的e-learning研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.59	15年度	アドバンスド・マグネティクス研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.60	15年度	フレキシブル有機デバイス研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.61	15年度	環境微量有害物質の 計測・除去技術に関する研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
No.62	15年度	土・水環境生態工学研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	

No.63	15年度	河川環境情報ネットワーク研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	

No.64	15年度	遺伝子技術を用いた環境影響評価研究会	予算額 20万円
	目的	特定分野における産・学・行政の研究者・技術者のハイレベルな情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	
	調査対象	大学、企業等	
	調査方法	会議形式	
	調査の成果	情報交換、技術トレンドの把握、ヒューマンネットの構築	

新技術説明会（RSP事業によるもの）

No.1	13年度	地域科学技術施策とRSP事業の成果報告会	予算額	90万円
	目的	技術紹介（RSP育成試験の成果発表会）		
	開催時期	平成13年10月25日		
	開催場所	名古屋銀行協会		
	参加者	産：46 学：16 官：47名	計	109名
No.2	14年度	RSP新技術フォーラム in 愛知	予算額	100万円
	目的	技術紹介（RSP育成試験の成果発表会）		
	開催時期	平成14年11月20日		
	開催場所	研究成果活用プラザ東海		
	参加者	産：54 学：4 官：37名	計	95名
No.3	15年度	H15・RSP新技術レポート	予算額	80万円
	目的	技術紹介（RSP育成試験の成果発表会）		
	開催時期	平成16年2月19日		
	開催場所	ホテルキャッスルプラザ		
	参加者	産：43 学：17 官：26名	計	86名
No.4	15年度	愛知県RSPレポート 最終報告会	予算額	90万円
	目的	講演会		
	開催時期	平成16年2月19日		
	開催場所	ホテルキャッスルプラザ		
	参加者	産：50 学：9 官：79名	計	138名

新技術説明会（それ以外のもの）

No.1	11年度	宇宙ステーションと計測科学・分析化学	予算額	10万円
	目的	技術紹介		
	開催時期	平成11年7月13日		
	開催場所	名古屋工業大学		
	参加者	産：44 学：11 官：5名	計	60名
No.2	11年度	乳酸菌を利用したバイオブリザーベーションと味噌の新規製造法の開発	予算額	10万円
	目的	技術紹介		
	開催時期	平成11年9月22日		
	開催場所	愛知食品工業技術センター		
	参加者	産：30 学：5 官：11名	計	46名
No.3	11年度	人間にとって「快適」とは！？	予算額	10万円
	目的	健康医療紹介		
	開催時期	平成11年9月29日		
	開催場所	愛知県産業貿易館西館		
	参加者	産：53 学：14 官：12名	計	79名

No.4	11年度	～人・自然・技術の調和～	予算額	10万円
	目的	名古屋工業技術研究所の活動報告		
	開催時期	平成11年10月21日		
	開催場所	通商産業省工業技術院 名古屋工業技術研究所		
	参加者	産：59 学：5 官：9名	計	73名
No.5	11年度	産業社会に見る数学技術、その可能性	予算額	10万円
		モノづくりから金融工学へ		
	目的	金融工学の紹介		
	開催時期	平成11年12月14日		
	開催場所	愛知県産業貿易館西館		
	参加者	産：51 学：10 官：14名	計	75名
No.6	11年度	高度情報化社会、変わりつつある社会と人々の意識	予算額	10万円
	目的	情報化社会の分析		
	開催時期	平成12年1月31日		
	開催場所	愛知県産業貿易館西館		
	参加者	産：117 学：5 官：18名	計	140名
No.7	12年度	ネット社会日米比較～第2のe革命に向けて	予算額	10万円
	目的	情報化社会の分析		
	開催時期	平成12年7月3日		
	開催場所	愛知県産業貿易館西館		
	参加者	産：86 学：3 官：8名	計	97名
No.8	12年度	「21世紀の科学技術立国 日本」と愛知への期待	予算額	10万円
	目的	参議院議員 有馬 朗人氏講演		
	開催時期	平成12年7月19日		
	開催場所	名古屋銀行協会		
	参加者	産：81 学：2 官：10名	計	93名
No.9	12年度	安定した環境調和型エネルギー供給に向けて	予算額	10万円
	目的	エネルギー技術紹介		
	開催時期	平成12年9月21日		
	開催場所	アイリス愛知		
	参加者	産：60 学：8 官：12名	計	80名
No.10	12年度	「米国（空軍）における企業・大学との共同研究	予算額	10万円
		：その現状と展望」		
	目的	米国の現状紹介		
	開催時期	平成12年9月28日		
	開催場所	愛知県産業貿易館西館		
	参加者	産：33 学：2 官：6名	計	41名

No.11	12年度	最新医療技術としての組織工学と再生医療 21世紀に向けたバイオ産業と生命科学の展望	予算額	10万円
	目的	技術紹介		
	開催時期	平成12年10月5日		
	開催場所	名古屋銀行協会		
	参加者	産：41 学：5 官：6名	計	52名
No.12	12年度	システムのモデリング手法(ボンドグラフ)	予算額	10万円
	目的	技術紹介		
	開催時期	平成12年10月25日		
	開催場所	愛知県産業貿易館西館		
	参加者	産：20 学：1 官：4名	計	25名
No.13	12年度	東邦ガスLNGタンク建設現場見学会 ～世界最大級の地下式LNG(液化天然ガス)タンク	予算額	10万円
	目的	先端技術見学		
	開催時期	平成12年11月6日、13日		
	開催場所	東邦ガス知多緑浜工場		
	参加者	産：43 学：3 官：8名	計	54名
No.14	12年度	志段味ヒューマンサイエンスパーク 先端技術連携リサーチセンター・見学会	予算額	10万円
	目的	先端技術見学		
	開催時期	平成12年12月22日		
	開催場所	志段味ヒューマンサイエンスパーク		
	参加者	産：60 学：2 官：5名	計	67名
No.15	12年度	フォトリックネットワーク技術の動向 ～ネットワークを支える最先端の光通信技術～	予算額	10万円
	目的	技術紹介		
	開催時期	平成13年1月29日		
	開催場所	名古屋銀行協会		
	参加者	産：85 学：4 官：8名	計	97名
No.16	12年度	名古屋大学 野依良治氏～文化勲章受章記念講演会～ 「日本の科学技術の飛躍に向けて 科学者の想う21世紀展望」	予算額	10万円
	目的	記念講演		
	開催時期	平成13年2月16日		
	開催場所	名古屋銀行協会		
	参加者	産：118 学：14 官：13名	計	145名
No.17	13年度	土木研究所 自然共生研究センター見学会	予算額	30万円
	目的	見学会		
	開催時期	平成13年5月17日		
	開催場所	土木研究所 自然研究センター		
	参加者	産：20 学：14 官：19名	計	53名

No.18	13年度	最新医療技術～遺伝子治療の最前線～	予算額	10万円
	目的	技術紹介		
	開催時期	平成13年6月19日		
	開催場所	名古屋銀行協会		
	参加者	産：18 学：15 官：21名	計	54名
No.19	13年度	社会と環境に役立つ工学の将来展望 ～知の創造から知の活用へ～	予算額	10万円
	目的	講演会		
	開催時期	平成13年7月18日		
	開催場所	アイリス愛知		
	参加者	産：28 学：10 官：13名	計	51名
No.20	13年度	21世紀の技術革新～ナノテクノロジーが開く世界～	予算額	10万円
	目的	技術紹介		
	開催時期	平成13年8月21日		
	開催場所	名古屋銀行協会		
	参加者	産：38 学：13 官：11名	計	62名
No.21	13年度	量子情報の技術動向と展望 ～複雑系から量子コンピュータまで～	予算額	10万円
	目的	技術紹介		
	開催時期	平成13年9月21日		
	開催場所	名古屋銀行協会		
	参加者	産：18 学：12 官：13名	計	43名
No.22	13年度	スーパーカミオカンデ見学会 - 宇宙の謎を解く宇宙線（ニュートリノ物理学） -	予算額	30万円
	目的	見学会		
	開催時期	平成13年11月2日		
	開催場所	神岡宇宙素粒子研究施設		
	参加者	産：17 学：14 官：17名	計	48名
No.23	13年度	ヒトとくらしと社会を豊にする新産業技術	予算額	10万円
	目的	講演会		
	開催時期	平成13年12月14日		
	開催場所	名古屋国際会議場		
	参加者	産：31 学：14 官：16名	計	61名
No.24	13年度	少子・高齢化社会に向けて	予算額	10万円
	目的	講演・福祉機器紹介		
	開催時期	平成14年1月29日		
	開催場所	KKRホテル名古屋		
	参加者	産：64 学：10 官：15名	計	89名

No.25	13年度	人と自然のための生活とは ～自然とつきあう - 自然との共存を民俗学の視点から考える - ~	予算額	10万円
	目的	講演会		
	開催時期	平成14年2月6日		
	開催場所	KKRホテル名古屋		
	参加者	産：21 学：5 官：19名	計	45名
No.26	14年度	国立長寿医療研究センターの紹介および “あいち健康プラザ”見学会	予算額	15万円
	目的	見学会		
	開催時期	平成14年5月17日		
	開催場所	健康科学総合センター		
	参加者	産：21 学：0 官：13名	計	34名
No.27	14年度	自然災害“地震”発生予測とその備え ～地震のメカニズムと市民生活の観点から～	予算額	10万円
	目的	講演会		
	開催時期	平成14年6月20日		
	開催場所	名古屋銀行協会		
	参加者	産：72 学：8 官：22名	計	102名
No.28	14年度	人間と協調・共存するロボットの将来展望	予算額	10万円
	目的	講演会		
	開催時期	平成14年7月9日		
	開催場所	名古屋銀行協会		
	参加者	産：46 学：4 官：30名	計	80名
No.29	14年度	次世代モーターの開発動向 ～最近の新しい電動機とその応用～	予算額	10万円
	目的	先端技術紹介		
	開催時期	平成14年8月30日		
	開催場所	名古屋銀行協会		
	参加者	産：51 学：10 官：14名	計	75名
No.30	14年度	地球環境にやさしい自然エネルギー利用の将来展望 ～太陽エネルギーの有用性を考える～	予算額	10万円
	目的	先端技術紹介		
	開催時期	平成14年9月27日		
	開催場所	名古屋銀行協会		
	参加者	産：38 学：12 官：18名	計	68名
No.31	14年度	世界最高性能の大型放射光施設 “SPring-8” 見学会	予算額	20万円
	目的	見学会		
	開催時期	平成14年10月23日		
	開催場所	高輝度光科学研究センター		
	参加者	産：26 学：3 官：13名	計	42名

No.32	14年度	持続可能な人類の発展と地球環境保全の両立予算額 ～地球環境変化と気候変動を考える～	10万円
	目的	講演会	
	開催時期	平成14年12月10日	
	開催場所	名古屋銀行協会	
	参加者	産：26 学：6 官：22名	計54名
No.33	14年度	期待される自然エネルギー利用、風力発電	予算額 10万円
	目的	技術紹介	
	開催時期	平成15年1月31日	
	開催場所	名古屋銀行協会	
	参加者	産：115 学：7 官：28名	計150名
No.34	15年度	高速鉄道技術のさらなる発展に向けて JR東海総合技術本部“研究施設”見学会	予算額 30万円
	目的	見学会	
	開催時期	平成15年5月15日	
	開催場所	JR東海総合技術本部研究施設	
	参加者	産：33 学：3 官：19	計55名
No.35	15年度	21世紀を拓く技術開発 -地球環境にやさしい近未来型飛行船の開発-	予算額 10万円
	目的	技術紹介	
	開催時期	平成15年6月20日	
	開催場所	名古屋銀行協会	
	参加者	産：34 学：19 官：18名	計71名
No.36	15年度	新技術開発展望 -有機エレクトロニクスが拓く世界-	予算額 10万円
	目的	技術紹介	
	開催時期	平成15年7月15日	
	開催場所	KKRホテル名古屋	
	参加者	産：40 学：3 官：16名	計59名
No.37	15年度	バイオプリザベーションによる 食品新規製造システムの開発	予算額 20万円
	目的	技術紹介	
	開催時期	平成15年8月26日	
	開催場所	研究成果活用プラザ東海	
	参加者	産：28 学：0 官：28名	計56名
No.38	15年度	RSP新技術フォーラム in 愛知	予算額 40万円
	目的	技術紹介（RSP育成試験の成果発表会）	
	開催時期	平成15年9月19日	
	開催場所	名古屋銀行協会	
	参加者	産：49 学：10 官：48名	計106名

No.39	15年度	高速大量輸送システムの実現に向けて “リニアモーターカー”見学会	予算額	30万円
	目的	見学会		
	開催時期	平成15年10月2日		
	開催場所	山梨県立リニヤ見学センター		
	参加者	産：21 学：5 官：13名		計39名
No.40	15年度	新技術動向 - 小型放射光とその産業応用への展望 -	予算額	10万円
	目的	技術紹介		
	開催時期	平成15年11月21日		
	開催場所	名古屋銀行協会		
	参加者	産：19 学：14 官：21名		計54名
No.41	15年度	バイオテクノロジー利用の豊かな社会の実現に向けて	予算額	10万円
	目的	講演会		
	開催時期	平成16年1月27日		
	開催場所	名古屋銀行協会		
	参加者	産：85 学：10 官：51名		計146名

育成試験（RSP事業によるもの）

No.1	11年度	耐塩・耐乾燥性調整遺伝子のイネへの適用	予算額 560万円
目的	地球環境の変化に伴い、塩害や干ばつなど植物の生育に適さない地域が広がっている。このような地域での食糧生産の向上をはかるために、遺伝子操作技術を適用して、植物の耐性能力の向上をはかることを目的とした。		
試験機関	名城大学		
試験方法	・耐塩・耐乾燥性と活性酸素消去能の関係の評価 ・耐塩・耐乾燥性と光呼吸の関係の評価 ・耐塩・耐乾燥性と分子シャペロンの関係の評価		
試験結果	Mn-SOD遺伝子を導入した形質転換イネは耐塩性・耐乾燥性が付与されることが明らかになった。グルタミン合成酵素遺伝子を導入した形質転換イネは耐塩性・耐乾燥性が付与されることが明らかになった。耐塩性ラン藻dnaK遺伝子を導入した形質転換植物は耐塩性・耐乾燥性が付与されることが明らかになった。平成13年度生物系特定産業推進機構「新技術・新分野創出のための基礎研究推進事業」へ申請（不採択）。		
現在の状況及び今後の展開方策	研究継続中。		

No.2	11年度	ハイブリッド型人工網膜の研究開発	予算額 760万円
目的	ハイブリッド型人工網膜とは、視覚系中枢神経を電氣的に刺激して失明者の視覚機能を回復させる人工眼のことである。その特徴は、培養した神経細胞の軸索を、眼内に埋め込む半導体デバイスと視覚中枢とを超並列的に接続する「生きた電気ケーブル」として用いる点である。そこで軸索伸長に関係する各種タンパク分子の濃度勾配を人工的に作り、半導体素子上に培養した神経細胞の軸索伸長を人工的に制御して神経回路を形成させる技術の開発を目指す。		
試験機関	名古屋大学		
試験方法	・神経細胞培養方法を確立する。 ・電極上の神経細胞を培養する。 ・試験細胞の軸索誘導の実験。		
試験結果	神経細胞の軸索を誘導する化学物質として4種類の物質を用いて、それぞれの濃度勾配を人工的に作り、軸索誘導を試みた。実験の結果、そのような化学物質を使用すると軸索の伸長が推進されることが判明した。平成12年度委託開発事業へ申請（不採択）。平成12年度NEDO医療福祉機器技術研究開発事業「人工視覚システムの研究開発」受託。		
現在の状況及び今後の展開方策	研究継続中。		

No.3 11年度 運動機能障害回復支援システム構築に必要な要素技術の確立

予算額 800万円

目的 間近に迫った高齢化社会においては、身体機能などの障害・低下に対するリハビリテーション技術が不可欠である。しかし、これに係る身体運動の高効率・高精度な計測技術ならびに人間との協調動作を安全に実現する支援機器の運動制御など解決すべき課題は多い。本研究では、運動機能障害・低下の回復を支援するシステムの構築に必要な要素技術を確立することを目的とする。

試験機関 名古屋工業大学

試験方法 ・身体運動をその外面から計測する視覚計測システムの構築
・ニューラルネットワークに基づく運動機能判定技術を展開
・膝関節の超音波非接触計測による形態および特性の変化検出技術を確立
・安全性・柔軟性を考慮した運動環境シミュレータ構築技術を確立

試験結果 (1)身体運動の外面からの視覚計測システムの構築、(2)膝関節部における特性評価のための超音波非接触計測技術の確立、(3)身体運動の認識、診断アルゴリズムとしてニューラルネットワーク手法の適用、(4)運動機能回復シミュレータに要求される安全性・柔軟性を考慮したロボットアームの運動制御の確立などを検討し、基本構成が確立できた。平成12年度独創的研究成果育成事業に東レテクノ(株)「漏洩表面波による材料物性装置」、また(株)新東Vセラミックス「電子回路基盤などの接合界面熱衝撃低サイクル疲労試験と非破壊検査評価システムの開発」で、成果の要素技術開発の申請を行った(不採択)。

現在の状況及び今後の展開方策

研究継続中。

No.4 11年度 携帯装置による視覚障害者歩行支援システム

予算額 580万円

目的 白杖で単独歩行可能な視覚障害者を対象に、視覚障害者を携帯装置だけで安全確実に目的地まで誘導できる歩行支援システムを開発する。

試験機関 豊橋技術科学大学

試験方法 ・指示情報のデータ収集と歩行実験
・教師データ作成システム
・回路基板製作とシステム製作

試験結果 歩行訓練士から視覚障害者が歩行する上でポイントになる情報を聴取し、それを基に新しい教師データの指示情報を作成。改善された教師データの効果を歩行実験をすることで確認した。素人でも適切な教師データを作成できるように、パソコンの画面上で選択肢の番号を選ぶことで教師データが作成出来る、対話型の新しい教師データ作成システムを構築した。システム製作を容易にするため、システムの回路の基板を製作し、その基板を基にシステムを製作し、回路基板が正しく製作されていることを確かめた。

現在の状況及び今後の展開方策

別の方面へ展開、研究中。

No.5 12年度 抗菌性乳酸菌による溜醤油製麹中の有害微生物の生育阻止

予算 250万円

目的 溜醤油の製麹工程に乳酸発酵を導入することにより、製麹工程で Bacillus などの芽胞菌の生育を阻止し、溜醤油を調味料として使用した加工食品（各種調理済み食品，タレ，ツユ）の変敗の原因を解決し、品質向上を図る。

試験機関 サンエイ糖化（株）

試験方法 溜醤油にとって有害な好気性細菌の増殖を効果的に阻止するナイシン生産菌を選択した。脱脂加工大豆を使用する溜醤油の製麹工程において、ナイシン生産菌は発酵不良であったが、乳酸発酵促進物質として大豆抽出液を添加することにより、乳酸菌の増殖を促進し、異臭や着色を生じない溜麹の調製が可能になった。一般に培養が難しく、専門知識や専用の培養装置が必要とされる乳酸菌を容易に利用できるようにするため、溜醤油製麹用の乳酸菌スターターカルチャーを開発した。

試験結果 溜醤油の製麹工程に乳酸発酵を導入することにより、その工程でパチルス菌の育成阻止し、食品の変敗の原因を解決できた。

現在の状況及び今後の展開方策

開発完了。用途開発中（味噌への応用）。

No.6 12年度 耐紫外線ファイバの研究開発

予算額 500万円

目的 シリカルファイバに紫外線照射を行いガラス中に多くの構造欠陥を誘発し、その構造欠陥を熱処理で取り除くことにより、ガラス構造の安定化と紫外線耐性の向上を図る。この処理条件の最適化と長尺ファイバでの処理技術の開発を目的とする。

試験機関 豊田工業大学

試験方法 ・光ファイバ紫外領域伝搬特性評価装置の開発。
・処理条件の最適化。
・長尺ファイバ化。

試験結果 紫外領域において光ファイバ伝搬特性評価が可能な装置を特注で開発し、紫外線損傷のより詳しいメカニズムの解明を進めることができた。市販の紫外線ファイバの初期透過率を1.4倍、10,000ショット後の透過率を3倍に向上することが可能であることを示した。紫外域の光散乱損失を計算し、可能なファイバ長を決定した。その結果、2mの長さの耐紫外線ファイバの製造方法を確立した。平成13年度NEDO「地域新生コンソーシアム研究開発事業」に申請（不採択）。

現在の状況及び今後の展開方策

ファイバを使ったシステムを検討中。

No.7	12年度	指紋認証アルゴリズムの半導体化の研究	予算額 350万円
目的	<p>中部大学梅崎研究室で研究されてきた画像処理技術の指紋認証アルゴリズムへの適用研究を基に、シミュレーションによるパラメータの最適化と、指紋の特徴量抽出機能、照合機能を半導体回路としての実装および評価を行う。これにより、セキュリティ分野において本人認証に使用される指紋認証装置の小型化を目指した、超小型の半導体指紋センサに適応する指紋認証アルゴリズムの半導体化の実証を行う。</p>		
試験機関	(株)ディー・ディー・エス		
試験方法	<p>指紋照合精度を維持するために必要とされる特徴量演算精度のビット幅を、実験用に採集した指紋データを用いてシミュレーションにより算出する。指紋照合精度を向上するために、最適なLPCケプストラムの分析次数、および最適な重み係数を実験用に採集した指紋データを用いてシミュレーションにより算出する。指紋認証のための関節切り出し機能、特徴量抽出機能、照合機能をそれぞれVHDL記述により設計してFPGA上へ回路実装し、基本的な性能評価を行う。</p>		
試験結果	<p>超小型半導体指紋センサに適応するアルゴリズムの半導体化が可能になり、商品化の目処がついた。平成13年度独創的研究成果共同育成事業に申請（不採択）</p>		
現在の状況及び今後の展開方策	<p>商品販売中。販路拡大を目指す。</p>		
No.8	12年度	気孔制御によるアルミナ強化磁器の軽量化	予算額 500万円
目的	<p>磁器の弱点である、「重い」、「割れやすい」、「冷めやすい」を克服することにより多くの分野で給食用食器としての利用が可能である軽量化磁器を開発する。</p>		
試験機関	瀬戸製土（株）		
試験方法	<p>軽量化のためには焼成後に気孔を形成するための素材を選定する。強度は、材料の組成や粒度を制御すると共に、これまでほとんど試みられていない磁器の積層による強化を取り入れ、軽量化と高強度化を両立させる。</p>		
試験結果	<p>多孔質（気孔率15%以上）の磁器基体の表面に緻密な磁器コーティング層を積層し、1.3倍の強度を得ることができた。さらに強度アップを考えた研究を継続している。</p>		
現在の状況及び今後の展開方策	<p>開発完了。市場売り込み中。</p>		
No.9	12年度	樹脂用フィラー材料の改質技術	予算額 500万円
目的	<p>PP（ポリプロピレン）樹脂は、安価で優れた性質を持つ樹脂であるが、低衝撃強さの面で用途が限られている。そのためフィラー配合による耐衝撃性など物性向上が、PPの用途拡大に求められている。そこで、ここでは、愛知県工業技術センターが保有する塩化ビニル樹脂</p>		

の耐衝撃性向上技術を、PP樹脂（ポリプロピレン）の耐衝撃性向上に応用した。

試験機関 石塚硝子(株)

試験方法 ・無機フィラーの均質分散方法
・耐衝撃性プラスチック製作・評価
・試作品製作・評価

試験結果 愛知県工業技術センターで研究開発した「耐衝撃性PVCの均質分散方法」をPPに応用し、約7倍強の耐衝撃性の向上を見た。

現在の状況及び今後の展開方策

製品への応用(自動車用バンパ)を期待する。

No.10 12年度 対麻痺者の歩行再建システムの開発 予算額 500万円
目的 対麻痺者の現実的歩行再建を成立させるため、新しい内側系ハイブリッドシステムの実用化を目指し、股関節、膝関節の可動性を持たせた装具の試作に取り組む。

試験機関 藤田保健衛生大学

試験方法 ・膝関節伸展補助装置を備えた長下肢装具の作製
・股継手の動力化
・歩行訓練シュミレータの作成
・内旋を許容した股継手の検討

試験結果 コイル状バネを用いた膝関節伸展補助装置、股継手の動力化、股関節内旋を許容した股継手等の開発が行われた。

現在の状況及び今後の展開方策

研究継続中。

No.11 12年度 遺伝子操作技術による有用植物の分子育種 予算額 11,400万円
目的 名古屋大学に蓄積された高度な遺伝子操作技術と、地域企業の有する優秀な育種種苗・育苗技術とを融合させるとともに、積極的な技術移転を図る。

試験機関 名古屋大学 (株)豊田中央研究所、アラコ(株)、スギムラ化学工業(株)、福花園種苗(株)

試験方法 人間生活に有用なイネ、花卉、シバ、ケナフなどの植物に着目した。これらは共同研究参加の企業が積極的に市場展開を図りつつある植物種である。実現しようとする形質は異なり、イネでは多収性、低草性、耐倒状性、シバでは酸性土壌耐性、花卉では切り花の花保ち性、ケナフでは繊維質の多収性の付与を課題とした。まず、これらの形質に関わる遺伝子の同定、機能解析を行い、次にこの遺伝子を植物体に導入するための条件検討を行った。

試験結果 遺伝子導入の技術開発に目処が立ち、基盤が出来た。「細胞の可塑的な成長・分化を支える分子機構」として平成13年度「中核的研究拠点(COE)形成プログラム」に採択され、研究の継続実施。また、13年度NEDO「地域新生コンソーシアム研究開発事業」に申請。(不採択)

現在の状況及び今後の展開方策

バイオクラスターとして各社商品化に向けての研究を継続中。

NO.12 13年度 高剛性・高ダンピング化を目的とする新規セラミック複合材の開発

予算額500万円

目的 高剛性かつ高ダンピング性を有する材料は、音響機器、医療機器あるいは高精度加工機械の構成部材等として重要な材料となることが期待される。しかし、これら相反する特性をもつ材料を簡易なプロセスで安価に作成することは困難であり、幅広い活用を阻害していた。今回、大阪大学での研究成果を基に、セラミックの複合化によってこれまでにない新規かつ低コストな高剛性・高ダンピング材料を開発するための基本的な知見を得ることを目的とする。

試験機関 (株) I N A X

試験方法 ・多孔体セラミックスの開発
・樹脂及び樹脂含浸技術の開発
・開発材料の特性評価

試験結果 目標値の気孔率30%程度を持ち、弾性率が40GPa以上の材料を開発できた。また試験過程において多孔体の細孔に含浸するためには樹脂液の粘性を低く調整することが有効であることが明らかになった。平成15年度地域新生コンソーシアム研究開発事業に採択され、実用化に向けた開発をすすめている。

現在の状況及び今後の展開方策

開発継続中。

NO.13 13年度 有機EL用低コスト・低抵抗透明電極フィルムのガスバリア性向上に関する開発

予算額500万円

目的 大面積・フレキシブル有機EL（エレクトロルミネッセンス）用透明電極に用いる透明導電フィルムの実用化には、低抵抗化に伴うコストアップがネックとなっており、透明導電薄膜フィルムに活用できる透明ガスバリア膜材料を調査・検討する。樹脂フィルム上のガスバリア性薄膜形成方法を確立し、ガスバリア性薄膜を含む多層透明導電薄膜の光学膜設計を行う。また、上記多層透明導電薄膜を用いた有機EL素子の長寿命化を確認する。

試験機関 東海ゴム工業(株)

試験方法 ・樹脂フィルム上へのガスバリア性薄膜形成方法を確立する。
・ガスバリア性薄膜を含む多層透明導電薄膜の光学膜設計を行う。
・上記多層透明導電薄膜を用いた有機EL素子の長寿命化を確認する。

試験結果 新規多層透明導電薄膜フィルムが、有機EL素子用透明電極フィルムとして実用性があることが確認できた。現在も社内で開発を継続中。

現在の状況及び今後の展開方策

開発継続中。

NO.14	13年度	3D	似顔絵のグラスマーキング技術に関する開発 予算額400万円
目的	現在、全周囲型の測定装置から取得した3D顔のデータから、3D模様として、限定されたガラスブロック内にレーザーによって描写加工することは可能となったが、例えば厚み、形状等一様でない物や薄い素材に対しては内部欠損が発生し描画加工が困難となっている。そこでこれらの素材に対しても同様の描画加工を施し、或いは似顔絵を描画加工して高価値商品とする為に、この技術を開発する。		
試験機関	(株)コスモテック		
試験方法	<ul style="list-style-type: none"> ・厚み、形状等一様でない物や薄い(20mm以下)ガラスにレーザー照射による3D顔を描画する技術の開発。 ・3D顔データから生成される似顔絵を高精度に描画する技術の開発。 ・効率のよいデータ変換のインターフェースを開発し 全体のシステムのスループットを向上させること。 目標：従来5時間を1時間に。 		
試験結果	<p>いろいろな形状、厚みのガラスに描写できる三次元濃淡描画グラスマーキングを確立し、今後高付加価値商品として様々なビジネス展開が可能となった。今後は、高付加価値技術の検討を重ね、低コスト化技術につき関係大学訪問していく。</p>		
現在の状況及び今後の展開方策	<p>商品販売を継続していく。</p>		
NO.15	13年度	加速度センサを用いた高齢者転倒モニターの開発	予算額300万円
目的	<p>本人の記憶に頼っていた転倒の調査を自動化し、転倒に関する情報を効率的に把握することにより、転倒の発生機序の解明を検討し、最終的に高齢者の転倒を防止することを目的とする。そのために、転倒の衝撃力、発生時刻や頻度を自動的に計測可能なモニターを開発する。万歩計程度のサイズで長時間にわたる連続計測を目標としている。</p>		
試験機関	国立中部病院長寿医療研究センター		
試験方法	<ul style="list-style-type: none"> ・無線通信システムによるデータ通信装置の開発 ・モニタの小型化 ・臨床評価用モニタの製作(20台以上) 		
試験結果	<p>試験研究の結果、目標とした万歩計サイズでリアルタイムに転倒の解析が可能なモニターが開発できた。試作品は、国際福祉機器展に出展し好評を得た。今後は臨床におけるデータ収集に利用。</p>		
現在の状況及び今後の展開方策	<p>患者に装着しデータの収集中、国際福祉機器展に出展し好評を博した。</p>		
NO.16	13年度	重度身体障害者の意思表示システムの開発	予算額300万円
目的	<p>随意動作の代わりに交感神経反応によって操作する重症身体障害者用情報機器入力支援システムの開発を行う。具体的には、SSR判別装置の開発、文字表示/出力プログラムの開発、フィールド試験を実施する。</p>		
試験機関	(有)ゆり電子		

試験方法 ・SSR判別装置の開発
 ・文字表示/出力プログラムの開発
 ・フィールド試験

試験結果 試験によって開発されたシステムを使用して重度身体障害者に臨床試験を行った結果、重度身体障害者の意思表示の手段として活用できることが確認されたため、今後商品化に向けて独自に開発を行っていく。

現在の状況及び今後の展開方策
 試作された機器を用いて、各種患者にセットしデータの収集中。結果を基に実用化を目指す。

NO.17 14年度 超小型皮膚ガス（アセトン）測定装置の開発 予算額200万円

目的 皮膚ガスとしてのアセトンが放出されていることを名古屋工業大学津田教授が発見した。このガスは、生活習慣病（糖尿病）の血糖値との相関が有り、生活習慣病のバロメータとして用いることができる。この小型で携帯可能な簡易型の測定センサを開発することにより、生活習慣病の予防に役立つ。

試験機関 名古屋工業大学

試験方法 ・近赤外線波長フィルターの開発（5種類）
 ・光路延長技術の確立（15cm以上）
 ・出力信号S/N比の向上（10倍以上）

試験結果 小型で携帯可能な皮膚ガスの測定センサーは、近赤外線の吸収を利用して検知する。近赤外線フィルターは、安価なプラスチック製を一種類選定することができた。光路長は、10cmのものを完成出来た。更に100cmの特性セルも2タイプ製作したが、小型化を図るため反射型を用いた。性能は、10cmもので、電気的な増幅によりS/N比は当初の約10倍を得たが、更に光源の強度、幾何学的配置などを検討して改良を加えていく。平成14年に研究成果活用プラザ東海の事業に採択され、平成15年度には当財団事業の先導的科学技术共同研究に採択された。

現在の状況及び今後の展開方策
 小型化に向け、試作開発を進める。将来的に商品化を目論む。

NO.18 14年度 高齢者社会参加・自己実現のための自動車乗降シミュレータ開発 予算額200万円

目的 自動車による移動が生活の一部になっている現在、身体機能が低下した人の社会参加・自己実現を可能とする訓練手段が求められてきている。田村部長は車椅子からベッドへの以上訓練において3軸加速度計を用いて半定量的に評価した結果、使用エネルギーが最小になる動作が最適であることを明らかにした。この成果を用いてリハビリテーション訓練用自動車乗降シミュレータを開発する。

試験機関 トヨタ車体(株)

試験方法 ・自動車乗降シミュレータに必要な要件・機能の検討・抽出
 ・上記抽出した要件・機能をもとに、自動車乗降シミュレータの試作

- ・自動車乗降シミュラを使ったリハビリテーションプログラムの作成
- ・上記プログラムの自動乗降シミュラモデルの評価
- ・評価結果を織り込んだモデルの改良と評価

試験結果 身体機能の低下した人の自動車への乗降実態を調査し、アシストグリップなどの補助具の検討抽出を行った。これを用いて軽自動車をベースにしたシミュレータの試作をし、このシミュレータで訓練したところ、従来に比べ、車の乗降がより安全に、かつ、短期間で可能になった。また、症状に合わせたリハビリテーションプログラム案を作成し、更に、教育用ビデオを作成した。今後は研究成果をユニバーサルデザインの車両開発に提言し、このシミュレータを商品とするための検討をしていく。

現在の状況及び今後の展開方策

リハビリ装置としての改良を進めていく。

NO.19 14年度 パーキンソン病診断チップの開発 予算額300万円

目的 神経変性疾患では、病態過程に伴い、様々な遺伝子の発現パターン（プロファイル）が変化することが予想される。この病態機能を解明するには、その発現パターンの変化した遺伝子(群)を同定することが必要となる。名城大学薬学部金田教授は遺伝子の機能解明が可能な新規のドパミン産生細胞を作り出した。その細胞に発現変化した遺伝子を導入し、その遺伝子の細胞機能に及ぼす影響を調べていく。遺伝子発現変化を網羅的に捉える方法として、「網羅的発現遺伝子プロファイリング技術」(アイシン精機株が開発)を使う。

試験機関 アイシン精機(株)

試験方法

- ・MPTP投与及び非投与マウス各々からRNAを抽出する。
- ・MPTP投与マウスにおいて発現変化している遺伝子を検出し、分取する。
- ・分取した遺伝子を新規なドパミン産生細胞に導入する。

試験結果 名城大学金田教授提供の実サンプルとなるパーキンソン病由来の発現遺伝子の解析を行った。従来法では、5~10年ぐらにかかるプロセスを、約6ヶ月の研究期間でパーキンソン病由来の発現変化のある遺伝子が11種類発見でき、分取、シークエンスデータまで完了できた。このことにより、非常に実用的な網羅的発現遺伝子プロファイリング技術の確立に成功した。

現在の状況及び今後の展開方策

今後はドパミン細胞に11種類の遺伝子を導入してタンパク解析を実施し、チップ開発につなげていく。

NO.20 14年度 擬ギャップ系金属間化合物をベースとする熱電変換材料の創製

予算額162万円

目的 エネルギー有効利用の観点から熱電変換技術を推進するために、新しい熱電変換材料としてFe₂Val化合物を開発する。Fe₂Valは擬ギャッ

ブ内にフェルミ準位をもつので、元素部分置換によって擬ギャップ構造を巧みに制御して熱電特性の向上を追究する。

試験機関 名古屋工業大学

試験方法 ・Fe₂VAlの熱電特性に及ぼす元素置換効果の検討
・元素置換による擬ギャップ構造制御の実証試験
・擬ギャップ系熱電変換材料の実用化可能性の評価

試験結果 構成元素V、Alを他の元素で置換した時、電気抵抗率が減少すると同時にゼーベック係数が増大することを確認した。また、元素置換によりフェルミ準位が擬ギャップの中心からシフトすることが熱電能増大の原因であることがわかった。AlのGe置換によりn型で出力因子P=5×10⁻³W/K²を示す熱電焼結体を作製し、これをp型のBi-Te系焼結体と組み合わせることによりペルチェモジュールを試作した。

現在の状況及び今後の展開方策

研究完了。共同開発相手会社との交渉中。

NO.21 14年度 木質圧縮材の機械部品への使用試験 予算額300万円
目 的 現在軽荷重の動力伝達装置の部品として広く、プラスチック樹脂の歯車が使用されているが、これは化石燃料を主原料としている為、環境面や資源の面で問題が大きい。このような問題のない天然素材である木質廃材を原料として軽荷重の動力伝達が出来る強度を持ち合わせた材料の研究開発を圧縮木質材で歯車を製作して試験研究する。

試験機関 中日精工(株)

試験方法 ・木質歯車の試作
・試作品の下記項目による評価
引張試験 荷重たわみ温度 曲げ強さ ロックウェル硬さ
・連続使用による評価
・実用化に向けた課題の抽出

試験結果 歯車金型への型押し成形では型接触面に成形流動時の「ムラ」が一部発生するが、金型精度と同等のものが成形された(旧JIS3~5級)。切削工具によるボブ盤歯切り加工は、切り下げ端面にチッピングが発生したが歯車の加工精度は炭素鋼、合金鋼の加工品精度と同等であった(旧JIS4級)。引張強度は、ジュラコンM90の1/2強、曲げヤング率は4倍を示した。荷重たわみ温度、ロックウェル硬さは、ジュラコンM90を上回る値を示した。この結果は特許出願し、成果の事業化のためプログラムC「プレベンチャー」へ申請を行った。

現在の状況及び今後の展開方策

開発継続中。

NO.22 14年度 ポリマーブレンドによる生分解性農業用ネット・ロープ他の開発 予算額300万円
目 的 生分解性樹脂は、ポリ乳酸樹脂が主体であるが、単独では物性が劣るため実用化が困難である。そのため、異なる性質の生分解性樹脂を相

溶化剤を用いてマイクロオーダーでブレンドすることにより改質し、高性能な繊維（ネット）を製造する技術を確立する。

試験機関 石田製網(株)
試験方法 ・相溶化剤、生分解性樹脂の選択
・生分解性ブレンド繊維の紡糸試験 農業用ネット・ロープ他の製品化試験
・屋外での生分解性試験
・繊維および製品の性能評価
試験結果 ブレンド紡糸により柔軟性、紡糸性が向上した。ロープ12種、メッシュ4種を製作し、場所（農地、海岸、林間、宅地）の異なったところでフィールド試験を開始した。農業用誘引紐、防鳥ネット、土嚢袋として現場投入を開始した。
現在の状況及び今後の展開方策
開発したロープやネット類をフィールドテストを実施中、各種ユーザーに売り込み中。多くの引き合いが来ている。

NO.23 14年度 高齢者・障害者対応型自動車用乗降補助椅子の開発 予算額200万円
目 的 自動車に着脱式の補助椅子を取り付けることにより、車椅子と自動車の間の隙間を埋めて、移乗を容易にするとともに、介護者の負担も軽減できる自動車用乗降補助椅子を開発する。障害者、高齢者の自動車への移乗動作測定・乗降補助椅子の固定の安全評価・多様車種への対応（試作）を行う。
試験機関 アサヒ精機(株)
試験方法 ・障害者、高齢者の自動車への移乗動作測定
・乗降補助椅子の固定の安全評価
・多様車種への対応（試作）
試験結果 補助椅子が、自動車への移乗に際して高齢者、障害者、介護者の負担を軽減した。試作品は、多車種に対応でき、使用上十分な強度を有する。試作品としては、機能性及び安全性について満足のいく結果が得られたが、製品の軽量化、操作の簡易化、デザインの再考、製造原価の低減を目標として商品化を目指す。
現在の状況及び今後の展開方策
自動車メーカー、タクシー会社にPR中。

NO.24 14年度 ポリアミド樹脂の接合性改良技術の開発 予算額300万円
目 的 ポリアミド樹脂（ナイロン）製品の接合もしくは融着は、これまで困難もしくは不可能と言われていた。そこで「融着」を主に捉えた従来の工法とは違う手法にて安価で且つ機能的に劣らないものづくりの技術（インサート成形を用いた一次成形品の接合部位にプライマーを塗布し二次成形側と接合する技術）を確立する。
試験機関 (有)アイ・オーアイ
試験内容 ・試作金型の作成

- ・成形品の物性評価
- ・界面特性評価

試験結果 プライマー（AP201）を塗布することにより、ポリアミド樹脂と同等の界面強度を有し、ばらつきも $\pm 3 \sim 5\%$ と高信頼性を得た。また、従来の超音波溶着、振動溶着、レーザー溶着等で行っている溶着技術に代わって射出成型法による成型で溶着できる可能性を見出した。

現在の状況及び今後の展開方策

大手自動車メーカーとの商談中。

No.25	15年度	鏡面体の高精度二次元傾斜角度検出装置の開発	予算額200万円
目的		発光ダイオード（LED）と半導体位置検出素子（PSD）を用いて光を反射する鏡面体（たとえばミラー）の2次元的な傾斜角度を非接触で計測できる装置の小型化と高精度化を目的とする。	
試験機関		（有）ユニメック	
試験方法		<ul style="list-style-type: none"> ・計測装置の小型化 ・計測距離の可変性 	
試験結果		レーザーディスク、CD関連装置や自動車ドアミラーなど、鏡面体を取り付ける際の2次元の傾斜角度を簡単に高精度で検出する装置を開発。レーザー光を用いる方法では広範囲の計測が困難であり、反射光は目に危険。今回は赤外LEDを用い、安価で計測距離に関わらず、高精度な計測が容易にできる装置の小型化に成功。	
		現在の状況及び今後の展開方策	
		電源装置を組み込みコンパクト化をはかる。	
No.26	15年度	PMMA系ハイブリッド樹脂の応用開発	予算額300万円
目的		PMMAと微粒子球状シリカゾルを複合化したハイブリッド樹脂が透明性を維持しつつ、耐熱性、表面硬度を向上させ、且つ機械的特性、成形性に優れた樹脂組成物となることを見出した。この新規PMMA系ハイブリッド樹脂を工業材料として製品化するため、樹脂試作による成形性評価と成型材料の応用物性評価を行い、成形性や特性確認を行う。	
試験機関		田村プラスチック製品（株）	
試験方法		<ul style="list-style-type: none"> ・新樹脂の応用開発と試作 ・新樹脂の成形性評価 ・成形品の基本及び応用物性評価 	
試験結果		ポリメタクリル酸メチル（PMMA）と球状シリカ微粒子を複合化したナノハイブリッド樹脂を開発し、耐熱性、表面硬度、機械的特性の向上が可能となった。また射出成型による製品成型試験においても、現行樹脂と同様に成型が可能で良好な成形性を確認。今後はナノハイブリッド樹脂の工業的製造法の確立を目指す。	
		現在の状況及び今後の展開方策	
		大手原料メーカーに工業的製法を依頼、また、大手自動車メーカーに現行品と交換の引き合い。	

No.27 15年度 「きら」粘土を利用した造粒物使用舗装工法及び透水性ブロックの開発
予算額250万円

目的 硬化材と骨材等との混合物を、造粒し、その造粒物が硬化する前に敷き均して押さえる施工方法及び予め同様の方法で成形した舗装ブロックであり、舗装を施工する現場で造粒物を造粒することと、それを未硬化のうちに施工するものである。即ち、造粒物を使用することにより、細骨材のみの造粒物でも造粒物間に空隙が出来、透水性を持たすことができる。

試験機関 増岡窯業原料(株)

試験方法 ・舗装材としての機能性確認のための試験施工。
・機能性(透水能力：係数0.05cm/sec以上・保水量0.3g/cm³以上)の評価。
・舗装材としての調和のある外観(色彩)の評価

試験結果 セメント等の硬化材と、骨材その他を混合、造粒し、硬化前に道路などの表層部に敷き、押さえて固める舗装法、及び同様の造粒物を成型した舗装ブロックを、未利用窯業原料キラを活用し開発した。造粒物間・同内部に微細空隙を生成させ、従来技術にない透水性(0.02cm/sec以上)保水性(0.25g/cm³以上)を同時に得ることができた。当面は歩道を対象に実用化を目指す。

現在の状況及び今後の展開方策

開発完了。実現場にて評価の予定。

No.28 15年度 高齢者・障害者のための健康支援遊具の開発 予算額250万円

目的 リハビリは単純な動作の繰り返しが多く、患者に苦痛を与えることが多い。そこで、手のリハビリに音楽を組み合わせ、音楽を楽しむ感覚でリハビリが行える装置を開発する。具体的には指の動きと音楽の旋律の推移を同期させ、指を曲げることにより音楽を演奏させるものである。指の動きは脳の活性と関係があると言われており、高齢者用の痴呆防止遊具としての効果も期待できる。

試験機関 旭ゴム化工(株)

試験方法 ・指曲げ検出装置の試作
・音楽演奏装置の試作

試験結果 高齢者や障害者、療養中の方を対象に、楽しみながら指の運動ができる装置を開発した。装置に内蔵された音楽を、指の動きに連動させて演奏することができ、健常者はもちろん、車椅子に乗った方、寝た状態の方でも手軽に利用することができるよう軽量・コンパクトで手に簡単に装着できることを開発のポイントにした。

現在の状況及び今後の展開方策

引き合いが数社来ている。より装着に違和感の無い装置の開発と機器全体の価格の低減にのため開発継続中。

No.29	15年度	電流制御性能を有する半導体電力制御装置の開発	予算額 300万円
目的		燃料電池開発では、電池の内部特性を評価するために、1,000A級の直流大電流と数Aの交流試験電流を同時に電池に注入する技術が要求される。本研究では、これに必要な大容量かつ高精度な電流制御性能を有する半導体電力制御装置を研究・開発する。	
試験機関		新東ブレータ(株)	
試験方法		<ul style="list-style-type: none"> ・交流法に不可欠な高応答・大容量電力変換装置の回路検討 ・回路の理論的な動作解析 ・回路のシュミレーション及び試作機による動作検証 	
試験結果		従来は、大電流での高速な電流制御が困難であったため、交流インピーダンス法では、ごくわずかな電流による測定のみ可能であったが、本研究により、直流大電流に交流電流を重畳することが可能となり、今まで困難であった定格出力時においても測定が可能となり、より詳細な燃料電池内部の挙動を観測できるようになった。	
現在の状況及び今後の展開方策		開発継続中。	
No.30	15年度	高機能リアルタイム電力品質診断システムの開発	予算額250万円
目的		工場、ビルなどの電気設備および機械設備において、負荷の運転状態を常時モニタリングして、リアルタイムで異常検出、故障診断できる機能を有する設備管理システムの開発を目的としている。本計画では高速デジタル信号処理技術を応用した計測診断システムを設計・試作するとともに、リアルタイム故障診断アルゴリズムの開発を実施する。	
試験機関		(株)トーエネック	
試験方法		<ul style="list-style-type: none"> ・電力品質診断システムの試作と機能評価 ・リアルタイム故障診断アルゴリズムの開発 ・フィールドテストによる不具合の抽出及びプログラムの改良 	
試験結果		変圧器や電動機などの電気設備の電圧・電流波形をリアルタイム演算・処理して、異常監視やエネルギー監視を行なうシステムを目指し、本研究では、DSP(Digital Signal Processor)を用いた高機能型計測装置の試作と監視用コンピュータ用のプログラム開発を行った。本システムについて特許申請準備中。	
現在の状況及び今後の展開方策		開発継続中。	
No.31	15年度	高弾性材料の精密角度曲げ技術の開発	予算額200万円
目的		圧縮とせん断を局所的に同時に与えるような加圧方法により1つの金型で小角度を任意かつ精密に曲げる加工原理(シーズ)について、量産プレス工程で実施しうる設備を開発し、従来のプレス型曲げでは角度精度保証が難しい高弾性材料の精密曲げ製品の開発を目的とする。	
試験機関		東海プレス工業(株)	
試験方法		・薄板ばね材の小角度曲げを1回の工具調整で高精度に実現可能な金	

型の試作

・高張力鋼板に対して1回の工具調整で高精度に実現可能な金型の試作

試験結果 金属板材のプレス曲げ加工では離型後に弾性変形による角度誤差を生じやすく、特に高弾性材料で顕著になる。本研究では、局所的な材料流動を制御して微小角度を任意かつ精密に調整しうる方法を開発し、角度誤差を生じやすいりん青銅および高張力鋼板の曲げ製品に適用し、微小角度調整が可能であることを確認した。

現在の状況及び今後の展開方策

ユーザーからのオーダー待ち。

No.32 15年度 環境磁気ノイズを排除する高性能磁気遮断ボックスの開発

予算額250万円

目的 高い透磁率を有する金属板（パーマロイ）を用いて、一般磁気環境空間において、効率よく環境磁気を遮蔽することができるシールドボックスを開発することを目的とする。

試験機関 アドバンスフードテック(株)

試験方法 ・アクティブシールド法の検討
・磁気遮蔽ボックスの試作

試験結果 食品等に混入する微小金属異物検出の信頼性を画期的に向上させる目的で、高温超伝導磁気センサー(SQUID)技術を使った「高感度金属異物検出装置」を世界に先駆けて開発した。本研究では、大型被検体用の装置で重要な技術ポイントとなる、環境磁気ノイズ遮蔽ボックスの高性能化に取組み、長尺化、重層化等の効果を検証した。

現在の状況及び今後の展開方策

更に評価を継続し商品として売り出すことを目論む。

育成試験（それ以外のもの）

・該当なし